

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391300102		
法人名	社会法人日岳会		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村報告日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成26年2月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者が安心して過ごせるためにしっかりと訴えに耳を傾けている。また安全に生活できるように生活リハビリやリハビリ体操を行い、身体機能の維持に努めている</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>和風の佇まいのホームは商業施設と民家が混在する中、裏手には田園風景が残っている静かな環境にある。開所して一年が経過し、入居者も落ち着き、また管理者は地域の自治会総会や清掃作業にも積極的に参加し地域との馴染みの関係を作るように努めている。各居室、共有スペースは、余裕の広さになっており地域の方との交流の場になる事が期待できる。職員は法人内研修会や外部研修への参加、資格取得などケアに対する意識も高いものとなっている。ゆったりとした雰囲気であり職員間の仲も良く、入居者のできる事を一緒に行うなど入居者に寄り添った支援を行っている。今後は生活リハビリを通して、潜在能力を活かしながら、その人らしい生活の支援を継続して行われることに期待したい。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同共有して実践につなげている	法人理念である「和・感謝・まごころ」をリビングに掲示し、念頭におきながら支援を行っている。パンフレットにも掲載している。	理念はホームの柱となるものです。家族や地域へ向けて発信するなどの実践につなげる取組みにも期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総会や役員会、区役などに参加して交流している	自治会の総会や区役に参加している。草取りや川さらいなど積極的に行っている。同法人のデイサービスや特養などにボランティアが訪れる時は出向いて交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板などを回して地域の人々に知ってもらっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者に報告して意見を聞きサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、区長・民生委員・老人会長・市職員・包括支援センター職員・家族代表等をメンバーとして開催されている。ホームの状況や活動を報告した後、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取りながら協力関係を築いている	日頃より支所に出向き相談や情報交換を行っている。電話でも連絡を取り協力関係を築きながらサービスに活かすようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修会に参加し身体拘束による弊害を理解しており、また身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束のないケアに努めている。昼間は玄関の施錠はせず出入り自由で、出られる方がおられる時は見守り重視のケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同虐待をしない対応を行っている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを開催し理解してもらい支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明し理解してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を取り入れて仕事に反映させている	面会時に状況を報告し、要望や意見を把握するように努めている。家族会の代表に運営推進会議に出席してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで出た意見を反映させている	毎月の職員会議や日頃のコミュニケーションから職員の意見等を把握するようにしている。職員間で話し合い解決できない事は法人の全体会議で話し合うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心を持って働ける環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあわせた研修や資格取得を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修参加を設け交流する機会を作っている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごされるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から情報、要望など聞いて対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気場で立場を考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物があるときには参加していた だき関係が途切れないように支援に努めている	地域の祭り等に出かけ知人と会ったり、馴染みの美容室には家族の協力を得て支援している。友人が訪問された際には歓待し継続した訪問をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話し合えるように場所などを考えて行っている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡等を行い相談や支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向に沿って行っている	今までの生活歴や家族からの情報を基に、入居者との日々の会話から意向や希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報をいただき把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一同把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族スタッフと話し合いながら介護計画を作成している	入居者や家族の意向、生活歴をもとに計画作成担当者がプランを作成している。会議で他職員との意見交換を行い、プランに活かすようにしている。定期的にモニタリングや計画の見直しを行っている。	担当制を取っておられますが、チームケアとして行う場合、把握した内容は職員間で共有するために記録の整備にも期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら見直しなどに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ一同で取り組んでいる		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員様から情報をいただき暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医と話し合いながら受診を行っている	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行っている。家族の状況に応じて同行支援を行っている。受診後は家族に報告をし情報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師は不在だがひだけ荘にいる看護師に相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だ取り組んでいません	まだ取り組んでいない状況である。ホームとしての方針の文書化を検討中である。	ホームとしての方針を作成し、入居者や家族にホームでできる事・できない事などを早い段階で説明されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に訓練を行い実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修会などで身につけている、また地域の区長等に協力体制有り	年2回昼間想定で入居者も参加して避難訓練を行っている。地域の消防分団長等に協力を呼びかけている。	夜間想定や職員間の緊急連絡網通報訓練の実施も期待します。

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人間として尊厳のある言葉掛けや対応をしている	今までの生活歴や一人ひとりの性格を把握し、人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。気づいたことがあればその場で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いたり、出来るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好きのように過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝からみだしなみを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者には野菜の皮むきやコップ洗いなど手伝ってもらっている	季節感や入居者の希望を取り入れながら献立を決めている。入居者と一緒にお買い物に出かけたり野菜の皮むきなど、できる事を手伝ってもらおうようにしている。職員も同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った量や味付けを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に毎回行って頂いたり介助したりしている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで夜間はポータブルトイレでトイレ介助をしている	自立の方もおられるが、時間やしぐさを見て声かけ誘導を行っている。昼間はトイレでの排泄を基本とし、夜間はポータブルを使用される方もおられる。布パンツ・リハパンツ・パットなどを使い分け自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやみかん、水分補給(コーヒー)をこまめに行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい時間に沿って行っている	入居者の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴拒否の方には時間をみて声かけしたり対応を工夫をし、無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしたもらったり就寝時間を考えて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬について理解しており服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に使用する野菜の皮むきや本人が好きな趣味をスタッフと共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと共に車で出かけられるようにしている	日常的には周囲を散歩したり、食材の買物に出かけている。季節ごとの花見やドライブなど外出の機会を積極的に計画している。家族の協力を得ながら外泊の支援を行っている。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持たせたり預かったお金で買い物に出かけたりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴え時にはスタッフが対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにソファやこたつを置き過ぎやすいように配慮している	リビングには季節を感じる装飾を行っている。リビングにはソファ、畳コーナーにはコタツを配置し思い思いに過ごせる場が設けられている。室温や湿度、換気などにも配慮し、清潔で気持ちよく過ごせる空間作りがしてある。リビングでは台所の調理の気配や煮炊きのおいも感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きいソファや1人用のソファを置いて工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら行っている	居室にはベッドとエアコンが備え付けてある。入居時になるべく馴染みの物を持ち込んでもらうようお願いしている。室温は職員が管理し、快適に過ごせるよう支援している。	以前の生活が継続できるために馴染みの物を居室に持ち込んでもらうような働きかけも期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには看板を作り床はバリアフリーにしてある		

## 目標達成計画

作成日：平成26年3月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	法人の理念とは別に野の花の理念を作りスタッフ及び家族に示したいと思います。	グループホーム特有の認知症の利用者に尊厳を持ち1人の人間として接して援助していくような内容で作成したいと思います。	1ヶ月
2	35	災害対策	夜間想定避難訓練と緊急連絡網の通知訓練を行う。	消防署と連絡を取りながら夜間想定避難訓練を行う。また緊急連絡網の通知訓練は早急に行うようにする。	2ヶ月
3	54	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人のなじみの物を居室に持ち込んで住んでいただく。	家族と相談しながらなじみの物を居室に持ち込んでいただく。	2ヶ月
4	26	チームでつくる介護計画とモニタリング	個人の介護計画とモニタリングをスタッフ一同で行い情報の共有を記録する。	チームケアで行えるように個人用の記録ノートを準備して記録してもらおう。またスタッフがサインをして全員で情報の共有をする。	2ヶ月
5	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	看取りケアを行うには看護師が必要になります。将来に向かって必ず必要と思っているので対策を取りたいと思います。また本人や家族に説明できるように文書化して行きたいと思います。	今後看護師の採用や訪問看護の導入で看取りケアを行って行きたい。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。